

行雲流水

No.225 令和4年6月17日発行

フェアプレイ

校長 寒河江 正人

明日から「北村山中学校総合体育大会」。

「急激な気温の上昇」が予想されるらしい。

勝負の以前に「熱中症への備え」は、くれぐれも怠りなく。

さて、参加する生徒諸君。

「勝ち・負け」や「順位」のみに頭の中や心の中が支配されてはいないか？

気になるのは当然のことだが、そんな時は自滅しやすいものだ。

「フェアプレイ」は、そんなピンチから生徒諸君を救ってくれる。

「フェアプレイ」には、2つの意味がある。

1つ目は「行動としてのフェアプレイ」である。

たとえば、「ルール・マナーを守る」「審判や対戦相手に敬意を表す」「全力を尽くす」

「勝っても、おごり高ぶることなく、負けても、ふてくされたりしない」など、

「その人の行動に表れること」をいう。

2つ目は、「フェアな心（フェアプレイ精神）」である。

スポーツの場面だけに限らず、

「日常生活の中でも自分の考えや行動について、それが良いことなのか、悪いことなのかを自分の意志で決められること」

そして、「自分自身に問いかけた時に、はずかしくない判断ができること」をいう。

「行動としてのフェアプレイ」は、だれが見ても「これは良い」と思われる行為だ。

一方、「フェアな心（フェアプレイ精神）」は、心のあり方なので他人からは見えない。

しかし、この2つは切り離せないものだ。

本校の選手諸君なら、

対戦相手と熱く熱く戦いながらも、冷静な頭と心で「フェアプレイ」に徹し、

勝っても負けても、「学び」のある「成長」のできる大会になるものと信じている！！

健闘を祈る！！